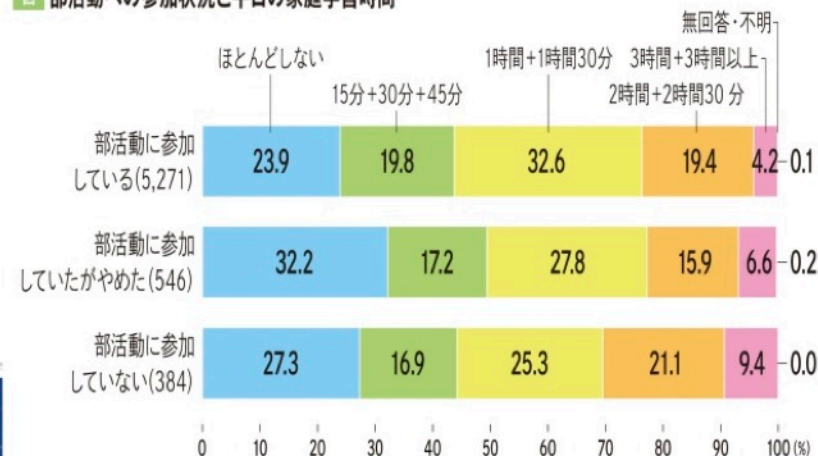


PLAYER'S FIRST 全ては選手の成長のために

子ども達がサッカーを通して健やかに成長すること。技術、体力とともに、自主性、協調性、周囲へのリスペクトなどを身につけ、豊かに成長すること。これが私たちの願いです。その実現のための方策は、地域によって、選手によって、指導者によって、様々あると思います。3種委員会では、指導者が基本的な方向性を共有し、より良いプレー環境を提供することで、選手の健全な成長を促すことができると考えています。ここに、その基本的な方向性を示したいと思います。ご一読いただき、皆さんの理解の一助にいただければ幸いです。

図 部活動への参加状況と平日の家庭学習時間



出典：ベネッセ教育総合研究所「第2回 子ども生活実態基本調査」(2009)

一貫指導の重要性

日本サッカーのレベルアップ、サッカーファミリーの拡大を目指し、日本のサッカーはフル代表を頂点として、各年代代表、そして各地域でのトレセンと、全ての年代が繋がっています。選手は多くの指導者のリレーによって育成され、上の段階へと進むのです。

選手の発達段階に応じた指導の考え方を指導者が共有することで、選手のより良い成長を促していく。これが「一貫指導」の考え方です。

三位一体の取り組み

子どもたちにより良い刺激を与え、レベルアップを促すために「強化」「普及」「指導者養成」の3つが大切です。

「トレセン」は選手を高める場であるとともに、指導者がお互いに学び合い、高め合う場でもあります。各エリアのトレセンや地域トレセン、GK 練習会などに、地域の指導者が集まり、そこで学んだことを自分のチームの選手に還元する。これが「一貫指導」につながります。

リーグ文化の醸成

「負けたら終わり」のトーナメント試合だけでは、選手を成長させることはできません。年間を通したリーグ戦により、「試合」→「練習」→「試合」という循環の中で選手を成長させたいと考えています。U-13 リーグや B 戦により補欠なし、全員試合経験。3年生にも「中体連で引退」ではなく、年間を通して戦ってほしいと願っています。学業との両立という問題もありますが、Benesse からは上のようなデータも出ています。